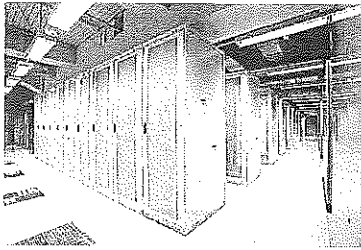


主要サービスで

CO₂を相殺

データセンター

データセンター運営のプロードバンドタワーは四月一日から自社の主要サービスのすべてで「カーボンオフセット」をオプション設定する。オフセットを選んだ顧客企業は排出枠で相殺した分だけ、自社の企業活動で出る二酸化炭素(CO₂)を減らしたとみなせる。電力消費が多いデータセンター産業ではCO₂対策が急がれているが、主要サービスをオフセット対象とするのは珍しい。

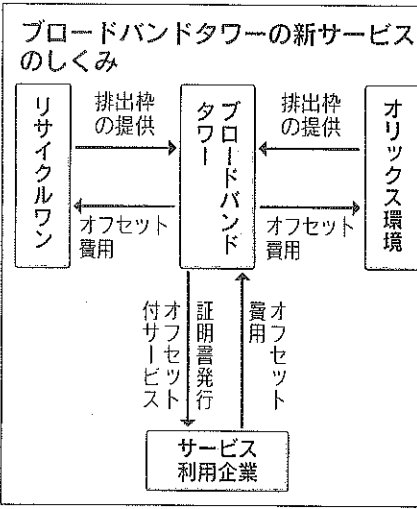


同社が提供するホスティングサービス(サーバー貸し)や、サーバー用ラックのレンタルサービスにカーボンオフセットを適用する。データセンターの利用では、機器を環境に配慮したデータセンター運営を目指す。

ブロードバンドタワー

利用客の環境対策支援

借りずにラックを借りるだけでも冷却装置や通信回線を使うことによる電力消費が発生する。顧客企業は通常のサービス料金に一〜五%程度上乗せすれば、使用で発生するCO₂を排出枠で相殺できる。ブロードバ



ンドタワーは現在、年間五万〜六万トンのCO₂を排出しているが、二〇一二年六月期までに総排出量の過半をオフセットにする計画だ。相殺に使う排出枠は、「CER」と呼ばれる国連の認証を取得した排出枠を充てる。環境対策支援サービスのリサイクルワン(東京・渋谷)や廃棄物処理事業のオリックス環境(東京・港)から調達する。ブラジルやインドの小規模水力発電や

風力発電で実現した温暖化ガスの削減分が排出枠になるといふ。ブロードバンドタワーは独立系のデータセンター運営事業者としては最大規模。主要取引先は大

手ネット関連企業で、環境問題に対する関心の高まりを背景に、顧客のカーボンオフセットへの関心は高いとみて、全サービスでオフセット対応を進めることにした。経済産業省の試算では国内総発電量に占めるIT(情報技術)産業の電力消費の割合は〇六年に

は五%程度だったが、二五年には二〇%にまで高まる見通し。インターネットの普及やネット通信のデータ大容量化でデータセンターの電力消費は急増している。データセンター業界ではビットアイルが昨年、オフセット付きサーバーレンタルサービスを始めてい